

西洋医学の先駆者

医者 杉田玄白

杉田玄白の名を知らない人はいないでしょう。けれど、その杉田玄白が小浜藩の藩医だったことを知る人は、この小浜市でもあまり多くないのではないのでしょうか。

杉田玄白は、江戸時代中頃、^{きょうほう}享保18年（西暦1733年）に小浜藩の医師 杉田甫仙の子として江戸の^{おばまはんしちやしき}小浜藩下屋敷で生まれました。

そして、玄白が8歳の時父が小浜へ転勤になったため家族とともに小浜へ来ました。

当時病弱だった玄白は、父が祈願した^{ふどうみょうおう}不動明王の滝水（小浜市大谷 ^{おおそうじ}小沢寺）で養生したと言われています。約5年間を小浜で過ごした玄白は、13歳でふたたび

父の転勤により江戸へ帰ります。

そして、17歳のころから熱心に医学（オランダ医学）を学びはじめ、21歳のときに正式に小浜藩の医者（外科医）になりました。当時の医療は針でウミを出したり薬をぬったり、焼いた鉄で血止めをする程度のものでした。玄白はそんな当時の医学に疑問を持っており、もっと人間の体のしくみを知りたいと思っていました。そんなとき、オランダの医学解剖書「ターヘルアナトミア」を知りました。そして死刑囚の解剖に立会い、「ターヘルアナトミア」の正確さにおどろいた玄白と中川淳庵、前野

^{りょうたく}良沢らはこの本を日本語に翻訳しようと決意します。さっそく、翌日から3人は良沢の家に集まり翻訳を始めます。しかし、3人ともオランダ語が読めません。そこで、まずオランダ語の勉強から始めますが、

『まゆというのは目の上にはえた毛である』という文章できえ、ひと月かかっても訳せないありさまでした。現在のように辞書や参考書がほとんど何もない状態でわからない単語を理解しようとするのですから、一般の常識では考えられない無茶な行為でした。

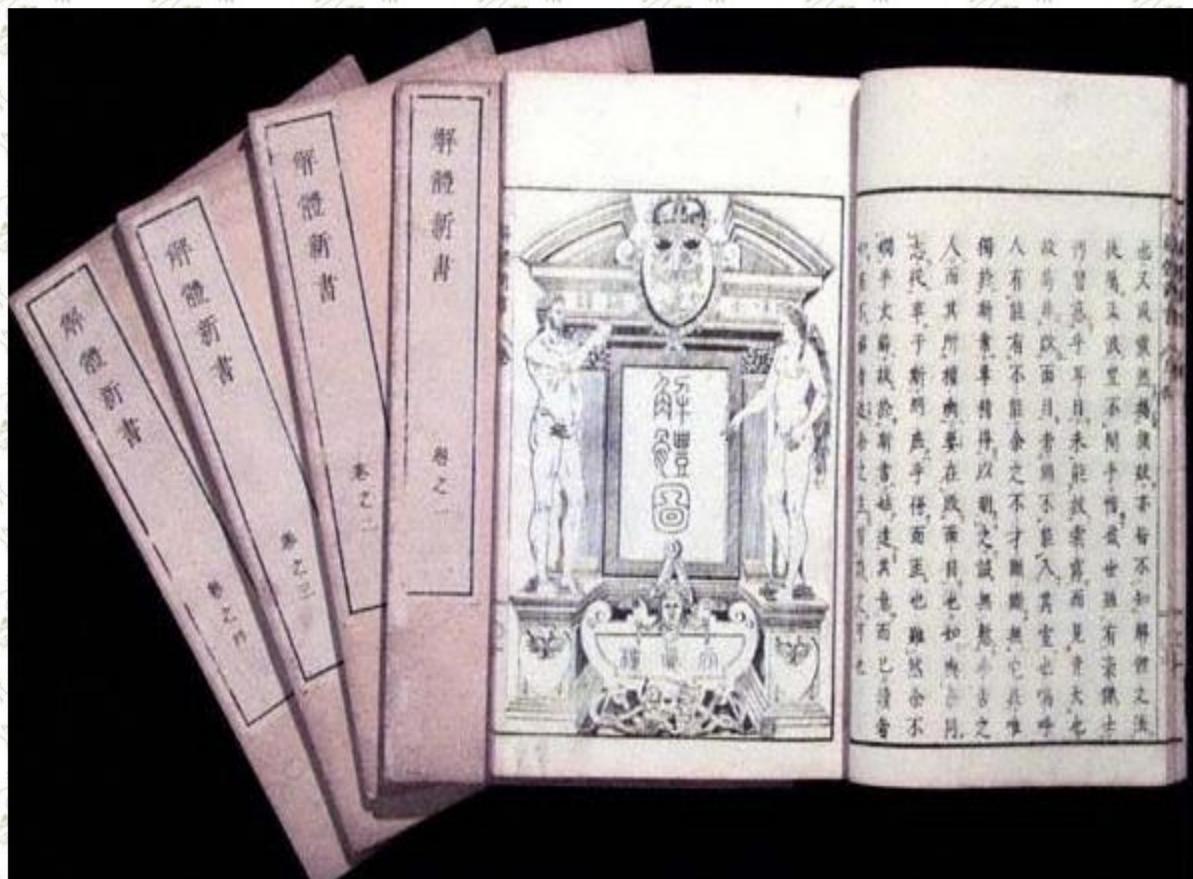
玄白らのとった方法は、わからない単語があるとだいたいの意味の予想をつけておき、ほかの意



小沢寺
(小浜市大谷)

味を予想し、ふたつの単語とも文章で使われている同じ単語を探してその場合の同じ意味で通るようになるまで考えあわせていくというやり方で、暗号の解読のようなものでした。それでもわからない事は後まわしにして、わかるところから進めていきました。中には、当時の日本にはない言葉などもあり、その場合には新しく言葉をつくりました。今でいう「神経」や「軟骨」という言葉はそのときにつくられた言葉です。

こうして、玄白らは月に6回～7回集まり少しずつ訳ができあがっていきました。また、翻訳のはなしを聞いて医者仲間が集まってきて次第ににぎやかなものとなっていきました。その中で玄白がみんなのまとめ役となり作業は進んでいきました。



そして、翻訳をはじめから約4年、11回もの書き直しをへて安永3年（1774年8月）ついに「^{かいたいしんしょ}解体新書」（本文4巻、図1巻）は出版されました。このとき、良沢52歳、玄白42歳、淳庵36歳でした。

「^{かいたいしんしょ}解体新書」は、実はターヘルアナトミアだけを翻訳したというものではなく、十数冊の西洋の医学書をもとにしてつくられた、日本ではじめての本格的な西洋医学書の翻訳書でした。

そして、これを契機に日本医学は新しい道を歩みはじめ、西洋の学問が研究され医学だけでなく西洋文化や物資の導入が盛んになり明治維新に向かうこととなります。

「^{かいたいしんしょ}解体新書」の出版後は、全国各地から玄白に教えを乞うため西洋医学をめざす多くの若者がやってきて、たくさんの弟子を持つようになります。

また、玄白は、年老いてからもますます活動範囲を広げ、画家や漢学、国学などほかの分野の学者との交流も深め医学以外の学問も勉強しています。医者としての仕事もかなりの歳になるまで続けて殿様から貧しい人まであらゆる人々を差別なく平等に治療しました。

そして、蘭学創始期の事情や「^{かいたいしんしょ}解体新書」完成までの苦労を振り返った「^{らんがくことはじめ}蘭学事始」という本を書き終え文化14年（西暦1817年4月17日）85歳の生涯を閉じました。

杉田玄白の養生七不可

- 1 昨日の非は恨悔すべからず。
(きのうの失敗は後悔しない。)
- 2 明日の是は慮念すべからず。
(あしたのことは心配しない。)
- 3 飲と食とは度を過ぎすべからず。
(食べるのも飲むのも度を過ぎない。)
- 4 正物に非(あら)ざれば、苟(いやしく)も食すべからず。
(変わった食べ物は食べない。)
- 5 事なき時は薬を服すべからず。
(何でもないのでむやみに薬を飲まない。)
- 6 壮実を頼んで、房をすごすべからず。
(元気だからといって無理をしない。)
- 7 動作を勤めて、安を好むべからず。
(楽をせず、適当に運動を。)